大　間　建　第 38 号
平成２０年１０月１６日

国土交通省道路局長　殿

青森県大間町長　金　澤　満　春

今後の道路行政についての意見・提案の提出について

貴職におかれましては、常日頃から地方道路行政に対しご尽力をいただき深謝申し上げます。

さて、平成２０年９月１９日付け国道企第３７号にて以来のありました今後の道路行政についての意見・提案について別添のとおり提出させていただきますので、なお一層地域の実情をご賢察いただき施策にご反映下さるようお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般についての要望

青森県大間町

北海道から沖縄諸島まで一本の国土軸として捉え、動脈を生かすためにも静脈の整備拡充を促進することが大事である。

人が流れることが、地域の活性化にも繋がると考える。地域の実情を見誤らず的確に対応した施策をお願いしたい。

選択と集中の基本的な考えは同意するが、国土軸としての位置付けを地方を考慮した文言を入れるなど、画一的な価値観でない評価をしていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１　地域の現状と抱える課題

青森県大間町

○現状	○課題
国道２７９号函館～野辺地間、国道３３８号函館～下田間は北海道を起点とし青森県へ繋ぐ幹線道路であり、海上国道としてフエリー航路大間～函館があり、生活、医療、産業の住民の命を繋ぐ足となっている。 併せて、大間原子力発電所運転開始に向けて建設工事が行われており、防災航路としての位置付けもある。	現存のフエリー大間～函館間航路が存亡の危機にある。 存続に向けた打開策が町最大の難題となりつつある。

今後の道路行政についての意見・提案　　様式③

②－２　地域の目指すべき将来像　　青森県大間町

本州最北端に位置する大間町は、国道２７９号、３３８号で北海道函館市と繋がっており、海上国道として、フエリー航路が住民の生活、観光、産業に、命を繋ぐ航路となっている。

また、着工中である大間原子力発電所運転開始を平成２４年に控え、将来的には防災航路としての位置付けとなる。

同航路は北海道と本州を結ぶ国土軸の重要路線として今後期待できる。対アジア観光交流など広域連携の掛け橋ともなり得る。

北海道と本州を結ぶ玄関口が「大間マグロ」をメーンとした地域活性化に、そして、国が検討されている国の今後の道路行政で問われ、計られる日常生活における身近な道路として、地域社会や産業との関わり合い、国策と言えるエネルギー施設に関わる防災等、代替え道路がない海上国道の維持が町の存亡となり得る。

地域を結び、命を繋ぐ、道路網の整備に海上国道の存続が国策となり得ると信じる。